

新幹線N700系の屋根上絶縁板脱落に関する 緊急申し入れについて窓口回答を受ける！

9月2日、本部は「申」第8号に対して窓口で回答を受けました。このN700系新幹線電車から絶縁板が脱落した問題については、8月25日に新幹線地本が、8月31日には新幹線関西地本がそれぞれ業務委員会を開催しています。会社からの回答と主なやり取りは以下の通りです。

「申第8号」回答

1. 絶縁板脱落事故の詳細な事実経過を明らかにすること。

【回答】

平成21年7月27日、Z19編成は、博多総合車両所広島支所の仕業検査において、屋根上点検を行ったところ、5号車パンタグラフ部に設置してある碍子オオイの絶縁版が剥がれて無くなっていることを作業者が発見した。(FRP制、縦1310mm、横1013mm、厚さ2.5mm、重量約5.5kg)

2. 原因の詳細と対策を明らかにすること。

【回答】

原因は製造時の接着作業不良により、絶縁版のシールが切れ、浸水により接着力が低下したため。尚、現在、仕業検査、交番検査でシール状態の入念点検を継続しており、加えて、運用間合いでメーカーによる取付状態の点検も行っている。

3. 事故発生後、屋根上の一斉点検は指示しているが、その点検理由について、社員の求めにも応えていない。事故の情報開示を速やかに行うこと。

【回答】

必要な社員に周知を行っている。

4. この間、指摘してきている通り、事故については速やかに労働組合に事故内容を開示し、再発防止のための協議を開催すること。

【回答】

協約の定めに応じ、その都度判断し説明する内容があれば説明する。

組合：絶縁版に滑り止めが接着されているが、その滑り止めが剥がれて、風圧により絶縁版が落失したということではないのか。

会社：詳しくはわからないが、説明した通りだ。

組合：落失した絶縁版は見つかったのか。

会社：まだ見つかっていない。

組合：新大阪、東京間で落失したと報道されているが、上りで落失した根拠は何か。

会社：当列車は7月27日に202Aで新大阪から東京まで行き、117Aで広島まで走行している。5号車の大阪方の絶縁版なので、可能性として上りだと思う。下りであればパンタグラフに何らかの痕跡があるはずだ。また、3号車の屋根上にキズらしきものがあつた。

組合：前仕業はいつか。

会社：7月25、26日と大阪で仕業検査を行っている。

組合：700系は滑り止めを塗布しているが、構造に問題はないのか。

会社：同じ現象が発見されていないから、それは考えられない。

以 上